

◆**実践校名** 泉南市立樽井小学校、泉南市立鳴滝小学校、和泉市立黒鳥小学校、高石市立高陽小学校、高石市立取石小学校、泉佐野市立第一小学校

◆**主題名** 思いやりの心 **道徳の内容** B 親切、思いやり

◆**ねらい**

松葉杖をついた男性がとった行動の本当の意味を理解し、それを理解したときの「ぼく」の気持を通して、相手を思って行動しようとする道徳的心情を育てる。

◎ **中心的な発問**

男の人の背中がかがやいて見えたとき、ぼくはどんなことを考えていたのだろう。

◆ **本時の展開**

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎電車の中での、自分の経験をふり返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> あなたは満員電車で座席に座っています。目の前にお年寄りがいます。あなたならどうしますか？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りに席を譲る、譲ったことがある。 ・せっかく座ったのだから、譲りたくない。 ・譲ろうと思っても、声をかけにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○電車での経験に触れることで、これから読む資料への興味付けをする。 ○場面が想像できるようにする。
展開	◎教員の範読を聞く。 ◎赤ちゃんを抱いて、乗ってきたお母さんが近づいてきたときの「「ぼく」」の気持ちを考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> あわてて帽子のつばで顔を隠したとき、「ぼく」はどんなことを考えていたのだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題をしたいから、席を譲りたくない。 ・他の人がきっとかわってくれるだろう。 ・気づいていないふりをしよう。 ・目を合わさないようにしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のことしか考えていない「ぼく」の気持ちに気付かせる。

◎男の人がとった行動の
本当の意味を考える。

◎男の人の背中がかがや
いて見えたときの「「ぼ
く」」の気持ちを考える。

急に問題が解けなくなったとき、「ぼく」
はどんなことを考えていたのだろう。

- ・「ぼく」が譲るべきだとみんな思っているだろ
うな。
- ・譲ったほうがよかった。
- ・恥ずかしいな。
- ・「ぼく」は自分のことしか考えてなかったな。

なぜ自分の目をうたがったのだろう。

- ・さっき降りたはずの男の人がまた現れたから。
- ・降りたと思ってたけど、となりの車両に移動し
てたんだ。
- ・男の人はさっきうそをついていたのかな。降り
るふりをしたんだ。

男の人の背中がかがやいて見えたとき、「ぼく」
はどんなことを考えていたのだろう。

- ・優しい人だったな。
- ・男の人はすごいな。「ぼく」も男の人みたいにな
りたいな。
- ・「ぼく」も席を譲ればよかったな。
- ・譲ったこともすごいけど、親切にしたことを隠
しているのがもっとすごい。
- ・相手のことを考えて行動するのってカッコいい
な。

○自分のことだけを考えていた
「ぼく」が、まわりの人のこと
を考えるように変化している
ことをおさえる。

○うそをついてまで、一度電車か
ら降りた男の人の行動につい
ておさえ、男の人の深い思いや
りの心を想像させる。

○男の人がとった行動をふりか
える中で、憧れや反省ととも
に、相手のことを思って行動す
るとはどういうことなのかと
いうところまで深めたい。

<評価>

誰に対しても思いやりの心
を持ち、相手の立場に立って行
動しようとしている。

(評価方法)

- ・発問に対する発言
- ・中心発問での記述

<評価をいかした支援>

児童の発言から主題にせまれ
るように補助発問を出してい
く。

◎本時の学習を振り返る。

今日の学習で考えた「思いやり」について考えたことを書きましょう。

＜評価＞

誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って行動しようとしている。

（評価方法）

- ・ふりかえりの記述

＜評価をいかした支援＞

板書をもとに振り返らせる。

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

(成果)

- ・ワークシートを使うことで、自分の意見をまとめることができ、普段発言しにくい子ども意見をまとめることができた。
- ・子どもの反応を振り返ることができ、次の授業に活かせ、子どもたちの成長をみとりやすい。
- ・中心発問に向かう過程で、基本発問の練り上げが重要になってくるということがわかった。「なぜ目をうたがったのか。」という発問を入れたことで、子どもたちが中心発問を考えやすくなった。中心発問に対し、「やさしい」「かっこいい」等男の人の席を譲ったという直接的な思いやりにふれる子どもたちもいたが、授業の中で、男の人の行動の真意（相手の立場にたって行動すること）にまで考えがふかまり、子どもたちの価値観が変容する場面もみられ、ねらいにせまっていた。
- ・挿絵やイラスト等視覚支援を行うことで、子どもたちが「話」の中に入りやすかった。また、グループでの話し合いを入れることで、発言しにくい児童への支援になり、ねらいにせまる話し合いになった。

(課題・改善策)

一人一人の発言をどうつなげ、ねらいにせまっていくかが今後の課題である。

→子どもの発言に対し、追発問として子どもに返すことや子どもの発言を活かすための工夫・てだてが必要。

○道徳の評価についての提言

◆ワークシートで子どもの成長をみとる。

- ・ワークシートに自分の意見や考えを書かせることによって、その時間に発表ができなかった児童の考えも教師が知ることができる。また、道徳ファイルとして今までのワークシートをためていくことによって、その子どもがもつ道徳的価値がどのように変化しているかを読みとることができるし、子どもたち自身が自分の価値観の変容を実感することができると考えられる。

しかし、教師は子どもたちの書く力だけで評価してはならない。書く力も大切ではあるが、授業で子どもたち一人ひとりがねらいについてどれだけ考えたかも評価に反映していくことが必要である。そこで、教師は授業の中で、子どもたちの発言を授業に反映させるか、子どもたちが自分自身の考えをどれだけ深めていけるか、発問の吟味が重要になる。

◆子どもの様子や実際の行動を評価に反映する。

- ・授業を通して、子どもの中にめばえた道徳的な価値の変化を行動や様子からみとり、評価する。
- ・学校生活の様々な場面を通して子どもたちの変容をみることによって、評価することができるのではないかと考える。
- ・実際にすべての子どもたちの変容をみとることが可能かどうかについて課題である。

【各校での実践の記録】

◆実施学年（ 5年 ）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

○中心発問や振り返りの記述から

- ・ 中心発問「若い男の人の背中がかがやいて見えたとき、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう」に対する記述では、席を譲った男の人の直接的な思いやりにふれる児童はもちろん、お母さんに気を遣わせない優しさにふれている発言も多く見られ、気づいてほしい「見えないやさしさ」に関する意見はたくさんあげることができた。
- ・ 最後の感想に行く前に「男の人は次の駅で降りるとうそをついたが、うそをついているのかがかがやいているのか？」の補助発問を投げかけた。「いいうそ」「相手を思いやっているうそだからいい」との意見から、ここにも男の人のやさしさがあらわれていると確認をした。
- ・ 最後の感想では「席を譲ってあげた」という直接的なやさしさにばかり注目する意見に片寄ってしまった。感想を交流後に、もう一度板書を元に、女の人「席を譲ってもらったこと」は気づきやすいが、「うそをついて降りたふりをした」ことはなかなか気づかない。しかし、どちらも相手を思いやるとった男の人の行動であることを押さえた。

○成果と課題

- ・ 全ての発問で意見をたくさん出すことができ、児童が活発に意見の交流をすることができた。
- ・ ワークシートの記述もたくさん書けた。
- ・ 最後の振り返りに行く前の押さえ方にもう少し工夫が必要であった。また、感想に「相手を思いやるとはどういうことか」という視点があまり入らなかったのもう少し、最後の意見に係る練り上げをする必要があった。

◆実施学年（5年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

【中心発問に対する発言の様子や内容から】

- ・「やさしい」「かっこいい」「すごい」と発言する子どもの姿がたくさん見られた。具体的に若い男の人がとった行動の中から、その意見の根拠となるものを取り上げていく中で、若い男の人がとった相手を思いやる行動についてふれ、思いやりとは何か考えさせたいと思った。そこで、補助発問として、「どんなところがやさしい（かっこいい、すごい）と思ったのかな。」と問いかけた。児童は、板書をふりかえるなかで、「うそをついてまで席をゆずったから。」「松葉杖をしているのに席を譲ったから。」「自分より他人を優先したから。」という意見を出した。若い男の人のとった行動の真意（相手の立場に立って行動すること）をつかむことで、ねらいにあげた「相手を思って行動しようとする道徳的心情」を育むきっかけとなった。
- ・授業の冒頭で、満員電車で目の前にお年寄りがいた場合、自分ならどうするか、という問いかけに対して、「子ども優先やから、座っといてもいい。」と発言したAがいた。しかし、中心発問に対しては、「この人は優しい人だなあ〜。（理由）母さんとかわってあげたから。」と書いていた。また、「思いやり」について考えたことを書いた際には「ぼくもやさしくなりたい。こまっている人がいたら助けてあげようと思った。」と書いていた。発言はしなかったものの、クラスメイトの意見を聞いたり、「ぼく」の心情の変化をみていったりしていくなかで、Aの考え方も変わったのではないかと考えられる。

【ふりかえりの場面の記述から】

- ・中心発問の前に、児童の思考をゆさぶる発問（内容項目にふれるための発問）として、若い男の人がとった行動（うそをついてまで席を譲ったこと）について取り上げた。「どうして、うそをついてまで席を譲ったんだろう。うそをつく必要ってあるのかな。」と問いかけた。児童は「たしかに、うそをつくのはアカンなあ。」「でも、そのうそってお母さんに心配をかけないためについたうそなんじゃない？」と発言しあう姿が見られた。このことも踏まえて“思いやりとは何か”を考えるきっかけになったと考えられる。記述には「人のことを思って言ったうそは、いいうそだなあと思った。」「思いやりのある人は周りのことが見えていてすごいと思った。」という意見が書かれていた。

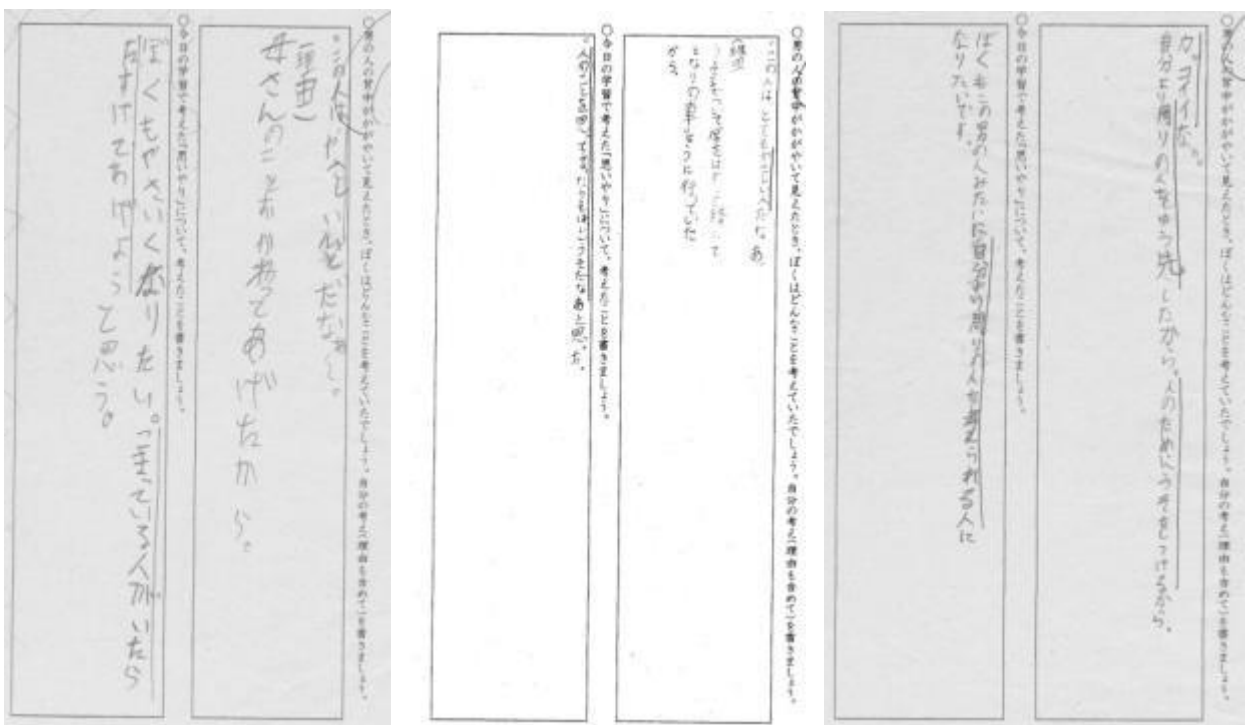
○成果と課題

- ・“誰に対しても”“困っている人がいたら”助けたり、席をゆずってあげたりするというふりかえりを書く児童の姿が多く見られた。自分のことだけではなく、相手のことを考えて行動することの良さ（思いやり）についておさえることができた。
- ・生徒自身が「自分も思いやりをもって行動しよう（相手のことを考えて行動しよう）」とする気持ちを持つことができた。
- ・「うそ」には、いいうそ、悪いうそがあることもこの教材からは知ることができたが、その時には、相手のことを考えることを前提にしていることをおさえた。全ての物事の事実を伝えることで、相手に心配をかけたりすることもある。時と場合によっては、うそをつくことがいいときもあることを伝えた。

【課題】

- ・電車に乗った経験（満員電車に乗った経験）が少なく、導入の場面における状況を理解することが困難だった。
- ・思いやりをもって行動したことや親切にしたことに対して、何らかの返し（感謝の言葉やお礼）がなくても、相手には見えない形で取り組むことのよさ（隠して取り組む）をおさえることができなかった。自分の意志で行動すること（お礼の言葉を言ってもらうために、行動しているのではないこと）の値打をおさえていない。
- ・「かがやく」という表現について内容理解のなかでおさえきれなかった。（中心発問でのワークシートの記述に「まぶしい」「背中に鏡をつけていた」と書いていた子どもがいた。）補助発問で、ぼくにとって、若い男の人の何（姿・行動）が輝いていたのかについておさえる必要があった。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）



◆参考資料

（板書写真）



実践校名（泉南市立鳴滝小学校）

◆実施学年（５年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

・車両を乗り換えたところで、「男の人ほうそをついた」という発言があり、指導者から「なんでほうそをついたんやろう？」と問いかけると、「相手の人に気まずい思いをさせたくなかったから」や「相手のことを思っただけのほうそ」という考えがでてきた。ほうそでも、相手のことを思っただけのほうそだと分かったようだ。

・振り返りの記述から、「席をゆずると、相手も自分の心もうれしい気持ちになる。」「自分のことより、人のことを心配することはすごいと思う。」など、思いやりの心を持つことや、相手の立場に立って行動するという考えを深めた児童が多かった。しかし、誰に対してもという点では、「お年寄り」や「けがをしている人」「妊婦さん」で終わってしまった。

・この「背中」を勉強したあと、実際に校外学習で電車に乗ることがあった。そのときに、お年寄りに席をゆずる姿や、「前に道徳で勉強したから、席に座るのは止めておいたねん。」という声が聞こえてきた。道徳の授業が実践につながっていると感じた。

○成果と課題

・評価を確認した後に、授業を行ったので、この資料で児童に感じてほしいことや考えてほしいことにつながる補助発問が出しやすくなった。

・児童の記述では、あいまいな表現が多々あり、どこまで評価をしてもよいのかという判断の基準をもって評価することが難しかった。

実践校名（和泉市立黒鳥小学校）

◆実施学年（ 5 年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

<資料名・・・背中>

○中心発問の場面の発言や記述の様子や内容から

- ・「自分も席を立てばよかった」「ゆずればよかった」「男の人はやさしい、かっこいい、すごい」「男の人は足が悪いのにゆずってすごい」という記述が多かった。もう少し深く、男の人の相手に気を遣わせないようにという思いや、周りへの配慮や気づかひにまで掘り下げるために、ある子の「『ほんとうにやさしい』というのはこういうことなんだなと考えていた」という発言から、「ほんとうにやさしい」とはどういうことなのかという補助発問をした。すると、相手を気づかった男の人の行動に対する発言がでてきた。
- ・ワークシート等の記述の中で、「お母さんに席をゆずり、心配をかけさせないためにちがう車両にうつったのがかっこいい」「周りの人のことをよく考えていると思った」などと書いた児童がいた。
- ・授業中のつぶやきの中で、「俺やったらゆずらへん」と言った児童に対して、問いかけることができなかった。

○振り返りの場面の記述から

- ・「わたしもこれから席をゆずろうと思った」という記述が多く、席をゆずるという気持ちを持つことはできた。「男の人は、やさしいと思った。でも知らない人に何かをゆずったりするのは勇気がいると思った」という記述を紹介し、相手を思う気持ちはあっても、それを実行に移すことの難しさを考えさせた。
- ・「男の人は、まわりに迷惑かけずにとりまの車両にいったことがすごい」「自分もあんな優しい人になりたい」という記述から、男の人の深い思いやりについて考えられた児童がいた。

○成果と課題

- ・ワークシートの子どもたちの記述内容を評価していくことで、次の授業にどう生かしていく考えることができ、授業改善に役立った。
- ・授業の終盤で、児童のつぶやきの中で、「俺やったらゆずらへん」と言った児童に対して、その意見を拾い上げ、授業に反映させることができなかった。
- ・男の人の深い思いまで感じ取れる児童が少なかった。

◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

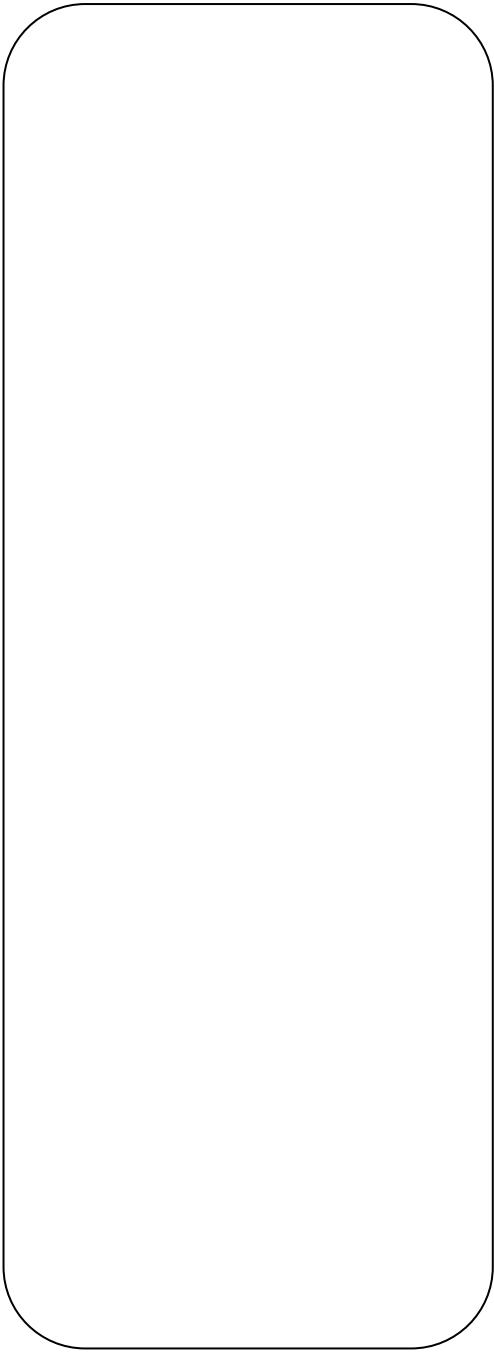
背中ワークシート

実践校名（高石市立高陽小学校）

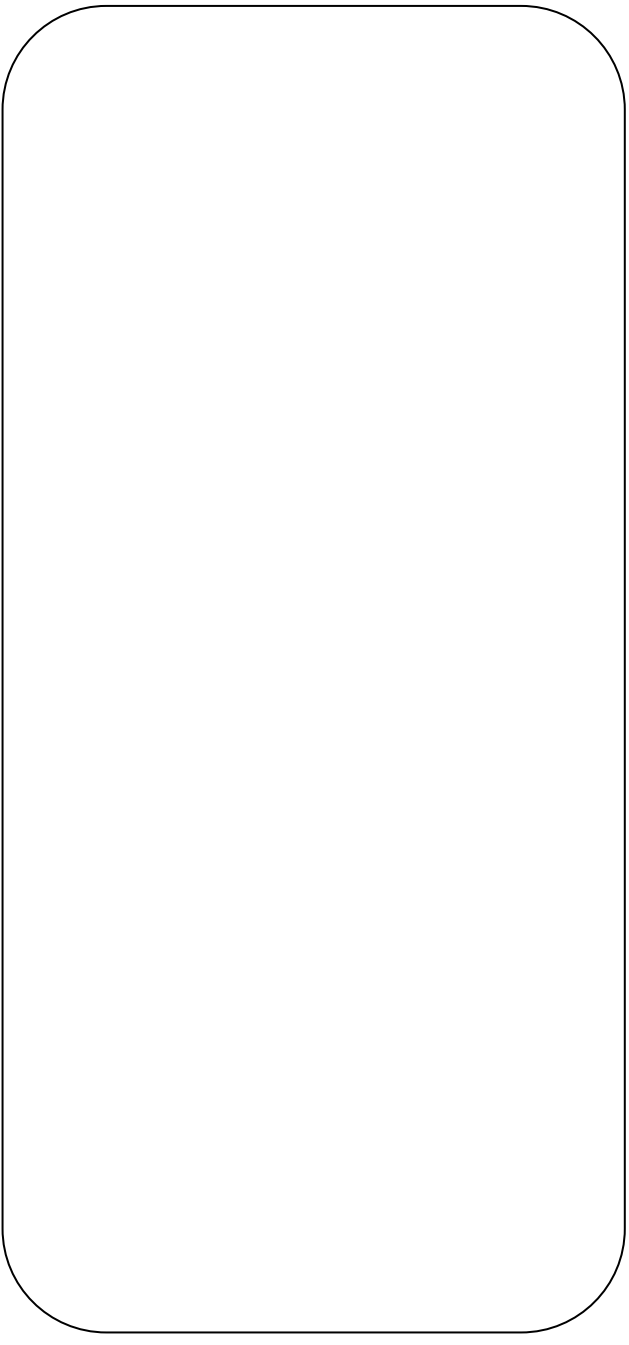
「背中」「フックシート」

）

◎男の人の背中がかがやうに見えたとき、「ほへ」はどんなことを考えた
のだらう。



☆今日の新聞で思ったことや考えたことを書きましょう。



◆実施学年（5年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

〈中心発問の場面の発言の様子や内容〉

- ・「男の人の背中がかがやいてみえたのはどうして」という中心発問を問う際、班で話し合わせた。話し合いの中で「あこがれている」や、「けがをしているのに相手を優先して格好いい」という意見が出てきた。その他に「背中に懐中電灯が入ってたんちゃうん。」「おれの服についでるキラキラみたいに夕日が照ったときに反射したやろ。」「幽霊やって透けて見えたんちゃうん。」というような意見もあり、「背中がかがやく」という比喩的な表現を理解させるのがとても難しかった。その補助発問として、「一回目に降りて行った男の人の背中がかがやいていた？」と伝えると、「そっか、かがやいてない。じゃあ何でやろう」と深く考えようとする児童がでてきた。しかし、それでもまだ「陽が照ってなかったから」と答える児童もいたが、そのときにある児童が「こんな感動する話でそのオチはないやろ。きっとこの男の人の性格を知ったからかがやいてみえたんやで。」と強く発言したので、その言葉をひろい、追発問として「この男の人はどんな性格？」と聞くと、「優しい」「思いやりがある」「思いやりがある」という発言もでてきた。その前の発言もありねらいに深くせまることが難しかった。

〈振り返りの場面の記述から〉

- ・「自分も行動する」というような記述から、思っただけでも行動に移すことができなかつた自分を変えていこうという気持ちをもった児童が多かった。しかし、この男の人については「優しい」「格好いい」という気持ちだけで終わってしまい、思いやりを持って行動する、人に親切にするという考えにいたらない児童も見受けられた。
- ・ある児童のワークシートからは男の人がすごいという気持ちだけで終わらず、「ぼく」にとっては、見たこともないようなやさしいひとだから背中がかがやいてみえた」と深く考えることができていたことが読み取れた。

○成果と課題

〈成果〉

- ・児童の発言から評価するという点では、普段発言が少ない児童でも話し合いを通して手を挙げて自分なりの意見を述べることができた。
- ・話し合いの時間に、お互いに考えを交流し合うことで、子どもたちの価値の変容がみられる班もあった。
- ・話のストーリーを追いながら人物の絵を動かして振り返ることによって、いつもなかなか内容を把握できなかった児童も、話の内容を理解し、ねらいにせまる考えがでてくる場面がみられた。

〈課題〉

- ・「背中がかがやいてみえたのはなぜ？」という中心発問を考えるときに、背中に電気が当たっていたからといった内容を答える児童がいた。これだけ中心発問に至るまでに考えてきたが、どこか他人事のような感じになり、子どもたちの価値観をゆさぶるまで発問がいたらなかった所もある。
- ・子どもたちの発言のどこを評価していき、次の指導にどのように活かしていくか今後も課題である。

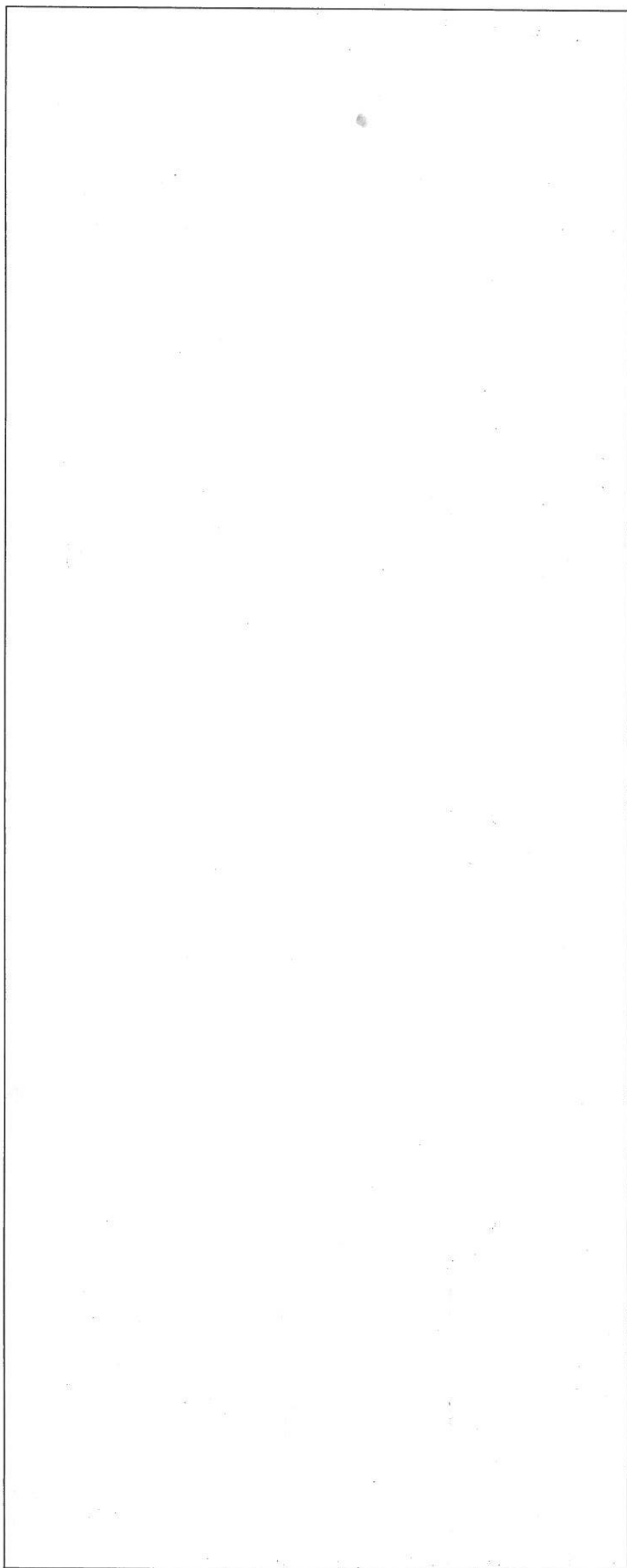
◆評価に用いた資料サンプル（子どものワークシートなど）

背中ワークシート

実践校名（高石市立取石小学校）

★「背中」を学習して考えたことや思ったことを書きましょう。

名前（



◆実施学年（ 5年 ）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

○各発問での子どもの発言

- ・「なぜ自分の目をうたがったのだろう。」の問いでは、文章の時系列を整理することで男の人は降りたはずなのにまだ乗っていたという点にきちんと着目して考えることができていた。男の人が「うそ」をついてまで降りた、という点に気づき発言した児童をきっかけに、赤ちゃんとお母さんに気を遣わせないためになど、男の人の立場にたった発言をする児童もいた。気持ちを考えることを苦手としている児童に対し、指導者が「男の人ってすぐに降りますからってうそを言ったんだよね…どうしてなんだろう？」と詳しく説明しながら問うと、「降りるって言わなかったらお母さんは断っていたと思う。」などの発言が出て、深めることができた。
- ・中心発問では、「なぜ輝いて見えたのかな？」という聞き方をすることで気持ちを考えることが苦手な児童も、ワークシートに記入することができていた。しかし、車両を代えてまでお母さんに席を譲ったという点に着目して記入できている児童は半数程度であった。「かっこいい」「優しい」などの単語でしか書けていなかった児童も友だちの意見を聞いて、書き加えている場面も見ることができた。

○成果と課題

- ・「あわてて帽子のつばで顔を隠したとき、「ぼく」はどんなことを考えていたのだろう。」の発問では、「代わったほうがよかったかな…」『ぼく』が代わればいいのに、と思われているだろうな」と発言する児童が多かった。「代わりたいけど、宿題もしたい」「代わりたい気持ちはあるけれど、せっかく座れたから代わりたくない」と発言する児童は少数であったので、ぼくにも代わりたくても代われない事情（宿題を終わらせないといけない）があったことを指導者が押さえることが必要であると感じた。
- ・ワークシートの最後の最後の欄で「思いやりとは○○だ！」と言い切りの形にしてしまったことで、感想が一言で終わってしまった。言い切りの形に限定するのではなく、自由に書けるようにすれば、もっとこの授業で学んだそれぞれの「思いやり」がたくさん書けたのではないかと感じた。
- ・「思いやり」の言葉に縛るのではなく、「この授業でどんな心をもりましたか？」などと問えば児童それぞれの個性があり、個々の学びを見とりやすくなったのではないか。
- ・発問を「なぜ～」に揃えたほうが気持ちを考えやすかったのではないか。
「～どんなことを考えていたのだろう」で揃えていたが、一つの発問だけ「なぜ」だったため考えにくそうにしている児童が多かった。「～どんなことを考えていたのだろう」を考えるにあたって、「なぜ」そのような行動になったのかをまず考えさせる必要がある。

実践校名（泉佐野市立第一小学校）